

1. 都立図書館在り方検討委員会報告の整理

令和元年～2年度に、長期的な視点で都立図書館の在り方について検討

現在の都立図書館における課題

- AI時代への対応の遅れ** —コロナ禍でDXの遅れが顕在化—
デジタルコンテンツの充実等、時代に応じたサービスにアップデートする必要
- 来館サービスへの偏重**
全都民にサービスを提供するため、非来館サービスの充実が必要
- 情報の創造・発信が不十分**
—調査研究が主流で他利用者との交流が未浸透—
新たな知識を創出し、発信する場所への転換が必要

今後の都立図書館に求められる役割と新しい機能

- 首都の図書館**として先進的取組を実践し、**全国の公立図書館のモデル**へ発展
- デジタル技術の進展に対応したサービスを提供する図書館
 - どこでも、誰でもサービスを楽しむインクルーシブな図書館
 - 利用者の研究・交流を支援し、**新たな知識を生み出す**図書館

《デジタル技術を駆使したサービスの充実》

先端的なデジタル技術を活用しつつ、デジタルデバイドを生じさせないように発展

■取組みの具体例

- チャットボットによる利用案内や、所蔵調査等の簡易なレファレンス
- オンライン（ビデオ・チャット）によるレファレンスサービス
- ワンボックスで検索できる直感的で使いやすい検索システム
- 動画配信による図書館活用講座等の非来館型イベントの実施

《デジタル資料を含む特色あるコレクション・利用促進》

今後、紙資料の出版点数の減少、デジタルコンテンツの流通拡大が予想

■取組みの具体例

- 東京都立図書館デジタルアーカイブのオープンデータ化・連携強化
- 電子書籍サービスの充実・リモート利用の提供

《東京の図書館ならではの施設・運営の追求》

■取組みの具体例

- オンラインデータベース等の端末や座席の空席状況のリアルタイム情報、オンライン利用予約

2. DX後の都立図書館（案）

- デジタル技術の活用**により課題を解決し、QOSをアップグレード
- DX重点取組事項**を構築・推進

《DXフレームワーク※を用いた都立図書館事業のDX可能性(例)》

※DXを段階別に分解することにより成熟度ごとにアクションの設計が可能

	レファレンスサービス	図書館活用講座等のイベント開催	デジタルアーカイブ	広報
デジタル化	Eメールによるレファレンスサービス	開催記録や配布資料の電子文書を作成	図書館資料の電子化、書誌情報のデジタルデータ化	印刷物による広報
デジタル化	チャットによるレファレンスサービス チャットボットによる利用案内や所蔵調査	開催記録や配布資料をHP上で公開 動画配信等による講座等の実施	TOKYOアーカイブでの公開（閲覧プロセスのデジタル化）	SNSを活用した広報
DX	都内自治体へのチャット導入支援 区市町村立図書館へのAI学習データの提供	区市町村立図書館へ講座動画や配布資料、ノウハウを提供	国立国会図書館サーチやジャパンサーチとの連携、オープンデータ化	SNS等を介した双方向コミュニケーションによる企画イベントの実施

※未実施のアクションについては太字で強調

《DXを推進する上での留意事項》

- DXにより、広域図書館としての役割を強化し、中央図書館・多摩図書館で機能分担しながら一体的に運営
- 首都における情報集積の拠点として体系的なコレクションを構築・維持しつつ、DXにより非来館型・来館型サービス双方を充実
- オンラインを介した情報の創造・発信・交流の場の提供
- デジタル人材を育成・確保し、デジタル技術を活用した事業を効果的に展開